

浦添(女子) 3年ぶりV 興南(男子) 16連覇

ハンドボール

(豊見城市民体育館)

【男子】

▽決勝
興南 28(15)16
浦添 17(7)13

【女子】

▽決勝
浦添 23(13)19
東江 10(9)19

東江同点ゴール
流れを呼び込む
守りから速攻、逃げ切る

前半26分。右サイドに走り込みジャンプ。前に出た相手GKの動きを見計らい、頭上に浮かせたボールが、ゴールに吸い込まれた。「これで流れが変わる」。序盤の劣勢を盛り返し、同点シュートを決めた浦添の



ハンドボール女子決勝 コザー浦添 素早い動きでシュートを決める浦添の東江莉佳(左)＝24日、豊見城市民体育館(喜瀬守昭撮影)

東江莉佳主将は直感した。これ以降は高い集中力でコザーに先行を許さず、3年ぶり10度目の栄冠を手にした。

相手は優勝候補筆頭の那覇西を破って勝ち上がってきたコザ。勢いそのままに前半の立ち上がり猛攻を仕掛けられ、9-5と点差を広げられる。

打開しようと前掛かりの

守備陣形にシフトし、相手エースの西田瑞歩が一時退場した際に、3点を連取。パスワークも機能し始め、初めて同点に。前半終了間際の29分すぎ一後半に向けて1点リードすることが重要だ」と、池原果首が守備をかくくぐって強引に10点目をもぎ取った。

この1点が大きかった。後半は13分ごろまで追い付

た。

悲願 一步届かず

コザ・西田、悔し涙

○：悲願の優勝に一步届かなかった。第1シードの強豪、那覇西を準決勝で倒したコザは気持ちも勢いも充実していたが、1点を追いつける後半、相手の積極

的な守りに、前半にはなかつたシュートミスも出始めペースをつくれなかった。日本代表U18の経験のある西田瑞歩に、4月に入学した中学県代表のメンバーが加わり、総合力が上がった。西田は「短期間だったが、これまでにないセット

プレーなど、幅が広がった。新しいハンドができた」と充実感を漂わせた。その上で、前半の反則退場で後半は消極的になってしまったとし「最後は肝心なところでチームを引っ張れなかった」と悔し涙も見せた。

興南 無類の強さ

○：ハンドボール男子は興南が無類の強さを見せつけ、16連覇を成し遂げた。「3年生だけでいかせてほしい」と直訴して組んだメンバーでの最後の大会。新型コロナウイルスで一度も全国に挑むことはできなかったが、瑞慶山充貴主将は「3年生の力で連覇を達成できてうれしい」と目を潤ませた。

決勝は攻撃だけでなく守りの堅さも光った。GK中村謙は1対1の場面でもシュートを阻むなど再三、好セーブを見た。

コートプレーヤーも機敏な動きでシュートコースをふさぎ、自由に打たせなかつた。後半開始直後、久志涼太がパスカットから一気にゴールネットを揺らすと



ハンドボール男子優勝の興南

ハンドボール男子決勝 興南-コザ 後半 激しく切り込みシュートを放つ興南の瑞慶山充貴(中央)

霧困気も最高潮に。ダブルスコアで完勝した。中村は「全国はなくなっただけ、この悔しい経験を次に生かしていきたい」と力強く語った。

熱闘

輝く青春



悔し涙がうれし涙に

女子・ハンドボール 新垣裕未(浦添)

相手とぶつかった瞬間、浦添の新垣裕未はコートにうずくまった。前日の準決勝で左膝を痛めていた。それでも最後の大会。「やってやる」。気力で出場を果たしたが再びひねった。

小学4年から始めたハンドは高校までと決めていた。

「これで終わるのか」。痛みよりも悔しさで泣き崩れた。

最後はチームが勝ちきり「きつい練習でもみんな一緒にやってきた。

優勝できてめっちゃうれしい」。うれし泣きに変えてくれた仲間たちに感謝した。



試合終了後、仲間と整列し、うれし泣きに暮れる新垣裕未(右端) 24日、豊見城市民体育館

かつての仲間がライバルに

ハンドボール コザ・浦添・興南

男子決勝を戦った両校には小学生の時、コザクラブジュニアでチームメイトとして支え合った顔があった。「昔の仲間と戦えて楽しかった」。コザ男子の仲座慧主将はライバルとなったかつての仲間との決勝を終え、すがすがしい笑顔だった。打倒を目指し練習を重ねたが「やっぱり壁は高かった」。悔しくて試合直後は仲間と泣いたが、コートの外では最後の舞台上で戦えたことをたたえ合い、ジュニアメンバー男女で写真に納まった。



元コザクラブジュニアのメンバーで記念撮影するコザ、浦添、興南の選手たち＝24日、豊見城市民体育館